



若者の定住と働き方を考える 地域円卓会議 in うるま市

若者の人材育成とミスマッチの解消

実施報告書

日 時： 2017年3月3日（金）18:00-20:30
場 所： うるま市役所大講堂（東棟3階）
主 催： 国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構、公立大学法人 名桜大学

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議 in うるま市



■日 時：2017年3月3日（金）18:00-20:30

■場 所：うるま市役所大講堂（東棟3階）

■着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）

■主 催：国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構
公立大学法人 名城大学

■来場者数：33名（企業・行政・NPO・教員・学生）

■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなか研究所わくわく

■お問合せ：国立大学法人 琉球大学 総合企画戦略部
地域連携推進課

論点提供

宮城 為治 氏（うるま市役所 企画政策課 課長）

若者の人材育成とミスマッチの解消

うるま市の人口は合併以降、増加を続けておりますが、その伸び率は鈍化しており、十数年後には減少に転じるものと予測されています。そのため、市では2060年まで人口12万人を維持することを目標に掲げ、その実現に向けて「うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「第2次うるま市総合計画」等に基づく取り組みを推進することとしています。特に雇用政策については、地域経済の発展及び雇用情勢の改善に向け、企業誘致や人材育成等を中心に取り組んでおり、中城湾港新港地区の雇用者数は、平成18年度の2,252人から平成28年度の5,439人と順調に増加しています。しかし、ハローワークの業種別有効求人倍率と求職者の希望する業種については乖離があり、雇用のミスマッチが課題となっています。今回の地域円卓会議では、大学との協働により若年者の雇用環境改善に向けた取り組みを行うための地域課題を共有できるよう、うるま市の現状や計画等についてご紹介します。

センターメンバー



宮城 為治
うるま市役所
企画政策課
課長



瀬名波 出
琉球大学 工学部
機械システム工
学科 准教授



石川 裕憲
有限会社 国吉組
代表



赤嶺 久美
就活サポート
であえ〜る
センター長



伊波 良和
株式会社
FM うるま
代表取締役



前田 芳彦
琉球大学
法文学部
3年次学生

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- うるま市の人口について
 - ✓ 市の合併により右肩上がり増加している
 - ✓ 具志川地区が人口を引っ張っている。勝連地区、与那城地区は減少に転じている
 - ✓ 島嶼人口は、10年間で20%減少している（H29年3,134人）
 - ✓ H37年までは微増傾向だが、その後から減少傾向になる見込みで、高齢化が進む推計となっている
 - ✓ 老年人口が増加し、H27年に若年人口を逆転した
 - ✓ 出生率は、1.85人であるため、今後人口は減っていく見込み（人口維持には2.07人以上が必要）
- 市への転入出は、ほぼ横ばいであり、10代後半～20代前半に大学や就職、進学時の年代では数値が落ち込むものの、うるま市へ戻ってくる地元志向がある
- 沖縄市との転入出が多い
- うるま市は、かつて公共工事の影響で第二次産業が盛んであったため男性は第二次産業従事者が多かったが、ここ15年間で2,000人減少している
- 現在、男女ともにサービス業に従事している人が多い
- うるま市では、人口増加のための施策を4点挙げている
 - ✓ 安定した雇用を創出すること
 - ✓ 新しい人の流れをつくること
 - ✓ 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえること
 - ✓ 快適で安心して暮らせるまちをつくること
- うるま市では新しい人の流れをつくるために、特に島嶼地域での空家活用や廃校活用（N高校や老人福祉施設等）を進め、住む場所と働く場所を提供する取り組みをすすめている
- 結婚や子育てしやすい環境づくりとして、医療費の無料化や保育所・幼稚園の待機児童の解消に取り組んでいる
- インフラ整備をし、安心できるまちづくりをしている
- うるま市の事業所数は、H21年の4,589事業所からH26年には4,436事業所と減少傾向だが、従業員数は、30,322人（H21年）から34,235人（H26年）と増加している。その理由としては、小規模店舗等が減っていることや大型店舗（サンエーやイオンなど）の雇用吸収力が強いことが考えられる
- 失業率は、18.2%（H22）とワースト5の数値であり、特に30歳未満の失業率が20%強と高くなっている
- 市実施事業ふるさとハローワークのうるま市への就業者数実績は、H21～27年累計で7,600人となっている
- 第三次産業の生産額がなぜ低いかは解析中
- うるま市の1人当たりの市町村民所得は、167万円となっており、県内39位。下から3番目の低所得とH25年のデータが出ている。文化的に近いはずの沖縄市は29位と開きがある
- 琉球大学工学部では地域で活躍する人材である、地域貢献人材を輩出できるようにコース見直しを行った
- 洲崎地区について
 - ✓ 洲崎地区の立地企業数は、12年間で約2.5倍増加している。業種としては、製造業、IT・サービス業、流通・卸売業の順で企業数が多い状況で、雇用者数も同様に多い
 - ✓ 洲崎地区での雇用は、正規雇用6割弱、非正規雇用4割強の内訳となっており、30代の子育て世代が多く働いている。また、うるま市在住者は31%、沖縄市在住者は30%である
- 建設業について
 - ✓ 建設業はうるま市に限らず人材不足の状態で、若者だけでなく全体数が足りていない
 - ✓ うるま市の建設会社数は、組合に加入している会社だけならば60社程度だが、加入していない会社も含めると300社程にのぼる
 - ✓ 国吉組は、社員30名のうち20代は2名しかいない。国吉組で働いている年代が一番多いのは50代で、会社内が高齢化している状態。若者の雇用確保のために、美里工業高校や未来工科高校の生徒をインターンシップで受け入れているが、その後の就職にはつながらない
 - ✓ 高校で建築や土木の専攻を卒業しても、全体の1割しか建設業には就職しない状況
 - ✓ 建設業においての実際の労働環境は、定着率が高く、一度入社すると辞めずに働き続けられている
- 若者の希望している職種は、事務的な仕事が多い。理由としては「公務員になりたい」「デスクワークがしたい」「子育てをしながらできる仕事がしたい」などが挙げられる
- うるま市石川の正規雇用率は25%で、洲崎地区以外では正規雇用率は減少している
- 具志川高校生は公務員志望が多く、中学卒業だと建設関係への就職が多い。また、具志川高校生1学年のうち、12～13名が大学進学をしているのではないかと
- 親の世代の考えで、子どもが就職する業種にブレーキがかかる

視点の提供

- 企業が望む人材を育てるために、キャリア教育を小学校、中学校、高校のころから年齢に応じて行っていくことが必要
- 仕事へのイメージを子どものうちから広げていかなければ、選択がせばまってしまう
- 業種として、第三次産業数が圧倒的に多いが、就業者の希望する職種とはギャップがある状況をどのようにマッチングしていくか
- 就労意識の啓発と雇用の創出を両輪で進め、人材育成をしていくことが必要
- 若者のニーズをつかむ必要があるのでは
- 若者にとってロールモデルとなり得るお手本になる人を紹介していったらどうか
- 近い将来のために、今何をしたら将来の給料に繋がるのか「働き方」を考える場をもつことが必要。親、本人たちへの情報提供として、異業種交流や成功例の提示をしていき、固定概念をなくすことが必要なのではないか
- 若者に主体性をもたせるために、いま困っている若者には、情報を提供するのと同時に、本人の話をきちんと傾聴していき、一緒に整理するスタンスが大切なのは
- 大学進学でうるま市から離れるため、その後うるま市に戻ってくる人は少ない印象があるがどうなのか
- まちづくり講座受講をきっかけとし、地域で働くのもよいのではないか、と考えるようになる
- 地域の不利性により、県外に比べて県内全体が商品等の単価をあげることが出来ず、利益を思った以上にあげられずにいる
- 第一次産業については、自家栽培や親戚同士での自家消費があるため、経済としてキャッシュフローは回らず給料が上がらないものの、現物支給等により実生活の質は低くないのでは
- 所得の統計データが低いのは、法人化していない会社が多いため、その会社のデータが反映されていないのではないか
- 建設業に関しては、イメージを変えるために新しい 3K（感動、感謝、貢献）をアピールしてはどうか
- 海藻研究をうるま市で行うことで、付加価値の高い商品を地場産業とし、雇用に繋がれるのでは
- うるま市は、橋で繋がっている離島があるため、地理的優位性を利用し、廃校になった学校を植物工場にするのも良いのではないか
- うるま市の研究支援としては、研究開発センター等の場所提供や県の施設の研究機材使用の助成、そして、規模によっては創業支援もできると考えられる
- うるま市の施策があまり知られていないため、情報発信をしていく必要がある
- 情報共有のためには、情報発信だけでなく、受け取る側の意識も大事なのではないか。若者と企業の情報と意識がかき混ぜていないのでは
- 情報の一元化のために何の情報が必要なのかをコーディネートするコンシェルジュが必要なのでは

評価の提供

- うるま市の所得の統計データは、かなり低いので間違っているのではないか
- 第三次産業は県内 4 番目の規模だが、1～3 位との差が大きい。人口が多い市になると分母が多くなるため、数値が高くなりづらい。このことが、市民所得の低さに関わっているのではないか
- うるま市の方たちは就業意識が低いわけではなく、キャリアデザインをしていく体系化ができていないことが問題。体系化という意味での就業意識の向上が必要
- 建設業に就職する人が増えないのは、3K（キツイ、キタナイ、キケン）のイメージが強いからなのでは

事例の提供

- H 28 年 11 月～職業訓練法人沖縄自動車エンジニア育成協会が自動車の開発やシミュレーションによるエンジニアの育成のために沖縄に立ちあがった
- FM うるまでは、学校の先生と企業の方とのクロストークをしてもらう取り組みをしている

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 産業構造の中で就労者の最も多い第三次産業の統計を解析し、所得向上に対する目標値を掲げる
- 企業と求職者のギャップを埋めるためには、教育現場との連携が必要
- 大学と企業とのコミュニケーションの場をつくり、情報交換と価値創造の議論を

■参加者によるサブセッション

「若者の人材育成とミスマッチの解消のためのアイデア」

会場発表（3グループ）

- ① ロールモデルは、社長さんとかではなく、一つ上の年代の身近な人の暮らしを紹介して欲しい。

【記載内容】

- 1) お金よりライフ 若者のニーズの把握 2) すごしたい暮らしをしているロールモデル身近な人 3) 働き方は生き方を決めること

これを発信できるアイデアとして、学生がつくるメディアをつくる！

- ② 一人ひとりコミュニケーションを取り、お互いの不満や良い所を言い合うことで、いい方向に進むと思う。

【記載内容】

- ・コミュニケーション力を高める（地元愛）

- ③ 女性の建設業で成功した事例を聞いたりして、固定観念をなくしていくことに、取り組めたら良い。

【記載内容】

- ・親に対しての情報提供
- ・異業種交流（個人レベルとして）
- ・成功例の提示
- ・固定概念を無くす。

会場からのアイデア（記載内容）

- ・OB、先輩の話を聞く機会を作る

（希望する仕事）

- ・親の意識改革

地域の企業情報の提供

- ・今のシステムは「押しつけ感がつよい」ので、アクティブラーニング（AL）PBL等を使ってやる気を高める！学校・地域・家庭

- ・情報→もっと知りたい！

教育→きらきらした大人を見せよう！仕事って楽しいよ♡

- ・職業を知るイベントや体験を多くして、それを積極的に参加せざるえないしくみを作る。

若者の定住と働き方を考える地域円卓会議 in うるま市

参加者アンケート集計

◆概要

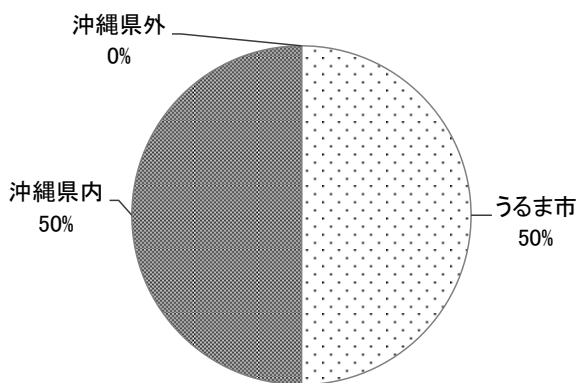
- ・ 日 時：2017年3月3日(金) 18:00-20:30
- ・ 場 所：うるま市役所大講堂
- ・ 着席者：8名(司会、記録含む)
- ・ 参加者：33名(アンケート回収8名、回収率24%)

4. 満足度

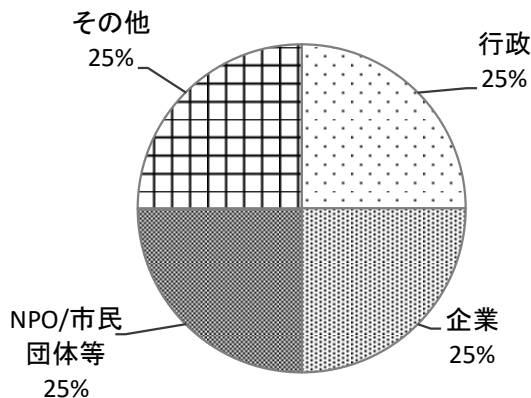
平均：4.0 (5点中)

5. 満足	4. 概ね満足	3. ふつう	2. あまり満足してない	1. 不満足
1名	6名	1名	0名	0名

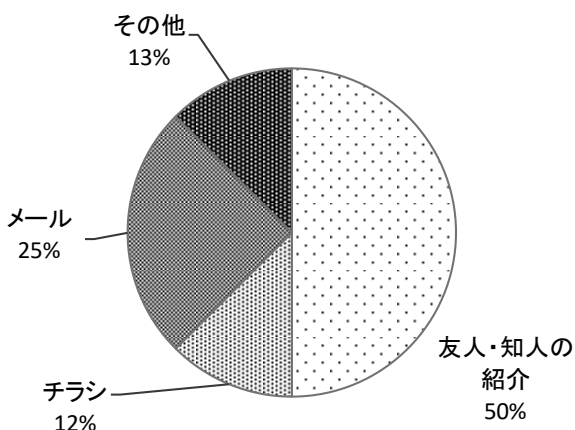
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 平良さんのファシリテーションがとても楽しかったです。話が時折まとめられていくので、理解しやすかったです

(4. 概ね満足)

- ・ 論点整理からセッション前半で中座しましたが、論点整理に対して進行役が聞き取るやり方が良かったと思います
- ・ 様々な情報、状況、考え方を聞くことができたので
- ・ うるま市の産業の特性を知ることができたどのようなアプローチをして、て就職を指導するべきなの、か考える材料を得ることができた
- ・ 市の現状課題が認識できた

(3. ふつう)

- ・ うるま市の特性をもう少し炙り出したいかなと思った。議論の終着点が一般的なものであったと印象が残る

6. 印象に残ったこと

- ・ 日雇い労働者において勤勉な労働習慣が形成されていないということ (ワークショップより)
- ・ 円卓会議という手法自体がとても良いと毎回思っています。
- ・ ロールモデルのアイディア
- ・ 学生は年の近い先輩の話をききたいということ
- ・ 情報と意識をかきまぜる
- ・ 経営者と学生の交流等を進めて、お互い知合い、仲を深めていかないと、と感じた

(写真) 会場の様子



- ・OB、先輩の話を聞く
機会を作る
(希望する仕事)

親の意識改革 地域の企業情報の提供

- ・親に対する情報の提供
- ・異業種交流(個人レベルで)
- ・成功例の提示
- ・固定概念を無くす

ミスマッチの解消と情報発信のアイデア

・167万の所得

今のミスマッチは解消しやすが
お金のことで

1. アドバイザリー・ラーニング(AL)

PBL等と併せて **APIL** 促

を高める! 学校・地域密着

ミスマッチの解消アイデア

☆情報

☆教育

もっと知りたい!

きらきらした大人を
見せよう!

仕事で楽しいよ♡

若者の人材育成とミスマッチの解消のために!

① お金おライフ

若者のニーズの把握

② すぐれた暮らしをしているロールモデル

身近な人

③ 働き方は生き方を決めよう



これを発信する? どう? として
学生がもっと発信をしよう!

職業を知るイベントや体験を
多くして、それに積極的
に参加せざるえないしくみ
を作る。

コミュニケー

ション力も高める (地元愛)